

沖縄担当大使通信 第3回 日米交流の推進

2026年（令和8年）2月25日



北谷町アメリカンビレッジでの日米交流事業
(2026年1月31日、於：北谷町内ホテル)

2月は沖縄でも寒い日が続きましたが、皆さんお元気でお過ごしでしょうか。私は昨年11月に着任してから、年末年始の各種行事への出席や幅広い関係者への挨拶をほぼ終え、日々の生活もようやく落ち着いてきました。

これまで約3か月間、仕事をしている中で特に嬉しく思ったのは、ここ沖縄で日米交流が幅広い分野で着実に進展していることです。これは、日米双方の関係者が長年にわたり努力を積み重ねてきた成果だと感じています。

今回の沖縄担当大使通信では、私自身が着任後に出席・参加した様々な日米交流の行事やイニシアティブをご紹介しながら、今後の日米交流の方向性について皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



嘉手納スペシャルオリンピックス大会
(2025年12月6日、於：米空軍嘉手納飛行場)

●嘉手納スペシャルオリンピックス大会

最初に強い印象を受けたのは、昨年12月6日に米空軍嘉手納飛行場で開催された[嘉手納スペシャルオリンピックス大会](#)です。幸い当日は天気に恵まれ、主催した米空軍第18航空団のジョン・ギャレモア司令官夫妻、ロバート・アーネット副司令官夫妻をはじめ、玉城デニー沖縄県知事夫妻、地元の當山宏嘉手納町長など日米双方から多数の来賓や関係者が参加していました。

嘉手納スペシャルオリンピックス大会は、身体および知的障害を持つ沖縄とアメリカの子供たちにスポーツで輝く機会を与えるイベントです。今回が第21回で、日米双方から100名以上の障害を持つ子供たちが参加して、徒競走やバスケットボール、サッカーなど様々なスポーツに挑戦しました。是非、[動画](#)や[写真](#)をご覧ください。

障害を持ちながらも懸命に努力する子どもたち、一緒になって声援を送るご家族や関係者の姿を見て、このような善意の活動の意義を感じる気持ちは、国を超えて共通するものと感じました。この大会の準備と運営は、[米空軍（第18航空団）](#)や[スペシャルオリンピックス日本・沖縄](#)をはじめ多数のボランティアに支えられています。主催者・関係者やボランティアの皆様に敬意を表します。



日本と米国の小学校教員の交流
(2026年1月29日、於：宜野湾市はごろも小学校)

●日本と米国の小学校教員の交流

[米戦争省教育部 \(DoWEA\)](#) と [宜野湾市教育委員会](#) の共催で、日本及び米国の小学校教員による交流が、昨年10月29日に嘉手納空軍基地のボブ・ホープ小学校で、本年1月29日に宜野湾市のはごろも小学校で行われました。

本年のはごろも小学校での交流には私も参加しました。参加した教員の皆さんは校内見学や授業参観をした後、教室で実際の授業に参加し、子どもたちから日本や沖縄の文化について英語でプレゼンテーションを受けました。授業の後には、日本の小学校における指導方法や学習評価について意見交換を行い、互いに学び合う貴重な時間となりました。

沖縄には、日本のみならず米国の小学校も数多くあります。日米双方の生徒のみならず教員にとっても、お互いの取組から学び、教育の質を高めていく機会をつくる取組は有意義と感じました。外務省沖縄事務所としても、このようなイニシアティブを後押ししていきたいと思っております。



北谷町アメリカンビレッジでの日米交流事業
(2026年1月31日、於：北谷町内ホテル)

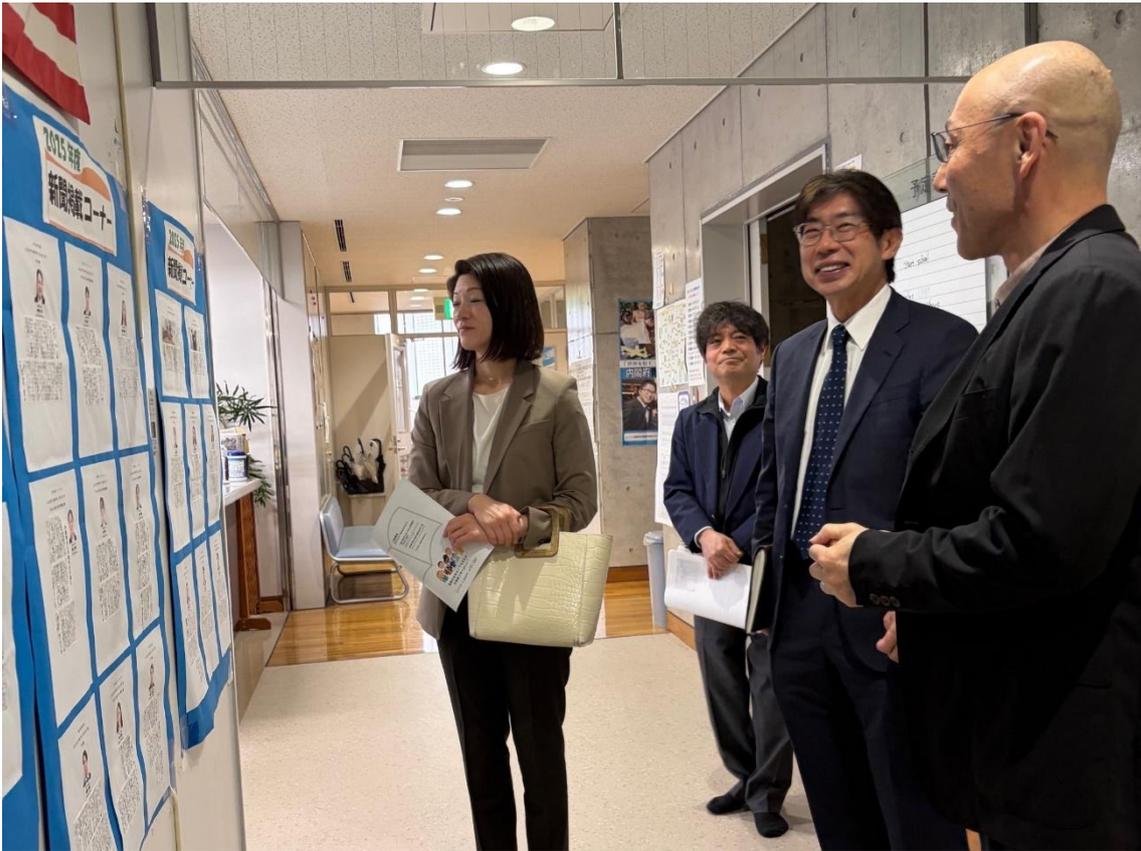
●北谷町アメリカンビレッジでの日米交流事業

日米の子供たちの交流は、地域が主導する形でも進んでいます。昨年12月13日と1月31日の両日、北谷町の[アメリカンビレッジ](#)で、北谷町と米軍基地の中学校から約50名の生徒が参加する交流事業「クリスマス映像作品制作」が開催されました。この交流事業は [2023年](#)に始まり、今回が3回目となります。

参加者は日米混合のチームを組み、アメリカンビレッジを舞台にクリスマス为主题とした映像を撮影・制作しました。撮影から編集まですべてを日米の中学生が協力しながら手がけたもので、お互いの友情を深める機会となりました。

私は1月31日の発表会に参加しました。北谷町長、北谷町の「北谷ツーリズムデザインラボ (DMO)」理事長、米戦争省教育部 (DoWEA) 代表とともに、全チームの作品を見て審査し、特に優秀なチームに表彰を行いました。

北谷町のアメリカンビレッジは、日米双方の子供たちがお互いの文化を学ぶ上で素晴らしい舞台だと思います。今後のさらなる発展を期待しています。



嘉手納外語塾への訪問（2026年2月2日、於：嘉手納町）

●嘉手納外語塾

嘉手納町は、地元の文化人や在沖米軍、外務省など幅広い関係者と連携しながら、30年近くにわたり「[嘉手納外語塾](#)」を運営して、地元の若者の人材育成に取り組んでいます。私は2月2日に同塾を[初めて訪問](#)して、町田優事務長と堀井俊龍教頭から説明を受け、授業を参観させていただきました。

嘉手納外語塾は1998年に設立され、嘉手納町出身の若者が毎年15名以内の少人数クラスで、2年間にわたり英語やIT、沖縄文化やビジネス・マナーを学び、海外研修や米軍施設内インターンシップ、英語コンテスト、国際交流やボランティア活動など様々なプログラムを経験することを通じて、国際化に対応できる人材の育成を目指しています。毎年、外務省の職員が講話に招かれている他、在校生や卒業生の中には、外務省の「アメリカで沖縄の未来を考える」（TOFU）プログラムや外務省インターンシップに参加した塾生もいます。

2月27日の卒業式にも出席して、卒業生やご家族を前に挨拶させていただく予定です。嘉手納町の人材育成の取組を、外務省沖縄事務所として引き続き支援していきたいと思っております。



「米国で沖縄の未来を考える」(TOFU) プログラム・オリエンテーション
(2026年2月23日、於：外務省沖縄事務所)

● 「米国で沖縄の未来を考える」(TOFU) プログラム

2月23日には、3月から米国に派遣される約30名の本年度「米国で沖縄を考える」(TOFU) プログラム参加者に対して、オリエンテーションを行いました。

TOFUプログラムとは、米軍基地が身近な沖縄の高校生・大学生など20～30名程度を米国に派遣して、日米関係や沖縄の未来のあり方を考えてもらう事業です。昨年度は、東京で官房長官や外務大臣への表敬や外務省・在日米軍・在京米国大使館との懇談を行った後、ワシントン DC で米国議会・国務省・在米日本国大使館など、ニューヨークで国連本部や国連日本政府代表部などを訪問し、米国の高校生や大学生とも交流を行いました。このプログラムは2017年の開始後、今年度派遣の学生も含めて既に約200名が参加し、[同窓生主導の日米交流活動](#)も始まっています。

今回のオリエンテーションでは私も同席して挨拶し、参加者の自己紹介や関心事項に耳を傾けました。今回の参加者が、このプログラムを最大限に生かして、様々な分野で将来の沖縄と日米関係を担っていくことを期待しています。



日米文化教育交流会議（カルコン）
（2026年2月19日、於：万国津梁館）

●日米文化教育交流会議（カルコン）

日米の文化教育交流には長い歴史があります。1961年、当時の池田総理とケネディ大統領の合意により、[日米文化教育交流会議（カルコン）](#)が始まり、2月17日～19日にこの[第31回日米合同会議](#)が沖縄で開催されました。

日米双方の官民約50名が沖縄各地を視察するとともに、デジタル時代の情報アクセスや地域間交流など最新の課題について万国津梁館で議論し、共同声明を採択しました。2月10日に[マンスフィールド・フェローの外務省沖縄事務所訪問](#)に参加した国務省学術交流事業部のマナー副部長も準備に当たっていました。

沖縄での日米の歴史を踏まえ、幅広い関係者による未来志向の日米交流が着実に進んでいることを心強く思っています。外務省沖縄事務所として、このような交流をさらに推進したく、ご協力いただければ幸いです。

沖縄担当大使
紀谷昌彦